

塩谷隆信, 高橋仁美, 高島千敬(編)

極める!! 最新呼吸リハビリテーション —今すぐできる栄養リハビリテーション と ADL/IADL トレーニング—

福地義之助
(順天堂大学客員教授)

本書は呼吸リハビリテーションの有効性をしっかりと検証し、すぐに使える技法をわかりやすく記載している点で、まさに書名どおりの「極意伝達」に成功している。江湖に普及して広く愛読されることを期待する。この評価の所以を以下に記して書評とする。

わが国における呼吸リハビリテーションの施行状況は臨床の現場では、残念ながらまだまだ満足すべきものとはいえない。その理由は2つに集約できる。第一に呼吸器内科の医師をはじめ、リハビリテーションの主要な担い手である理学療法士(PT)や作業療法士(OT)の間でも呼吸リハビリテーションの有用性と実践方法への理解の広がりや深化が十分ではないこと。第二に従来の保険診療の枠組みでは呼吸リハビリテーションへの対価が不当に低かったことが挙げられる。診療点数の見直しで第二の問題点は若干は正され、病院運営上で呼吸リハビリテーションへの人員配置が増

加する方向につながったと思われる。

第一の課題への取り組みは、2003年発行の『呼吸リハビリテーションマニュアル—運動療法—』(照林社)、2007年発行の『呼吸リハビリテーションマニュアル—患者教育の考え方と実践—』(照林社)によって着実に進歩した。しかし両マニュアルとも詳細にして充実した内容をもつが、携帯には分厚く現場に必要な部分を手軽に参照することは容易ではない。加えて呼吸支援プログラムが在宅療養にも次第に広く取り入れられる機運とともに、患者およびその家族、ケアマネジャー、医療福祉関係者などの医療専門職以外の人々にも理解できる情報へのニーズが高まってきた。

本書は呼吸リハビリテーションの基本理念から、包括的プログラムの運動療法の解説にはじまり、栄養学的支援の実践に至る内容を、治療経験の豊富な多数の著者を得てすぐに利用できる簡潔さで記述している。特に ADL・IADL を同等に解説していること、対象疾患を COPD、結核後遺症、間質性肺炎、肺がん進行例、嚥下性肺炎など高齢社会に多発する疾患を網羅していることは類書にはみられない新奇性である。中でも COLUMN の諸項目は学術性の高い内容を噛み砕いて読者に示しており、画竜点睛の感がある。

●B5 判・262 頁
定価 3,885 円(3,700 円+税)
2010 年 10 月 南江堂・刊

◎PT ジャーナル/バックナンバーと特集テーマのご案内

過去 2 年分のバックナンバーは当社に在庫がございますので、ご入用の際は弊社販売部(☎ 03-3817-5660 FAX 03-3815-7804)までお申し込み下さい。それ以前の号については東亜ブック(☎171-0014 東京都豊島区池袋 4-13-4 ☎ 03-3985-4701 FAX 03-3985-4703 e-mail: st@toabook.com URL: http://www.toabook.com/)にお問い合わせ下さい。

[第 43 巻(2009 年)]

- 第 6 号 パーキンソン病の理学療法最新線
- 第 7 号 筋再生と理学療法
- 第 8 号 ICF と理学療法
- 第 9 号 膝関節疾患の理学療法
- 第10号 老化による身体機能低下と理学療法
- 第11号 地域の高齢者に対する理学療法士の視点
- 第12号 連携教育

[第 44 巻(2010 年)]

- 第 1 号 これからの理学療法

- 第 2 号 脳卒中のゴール設定
 - 第 3 号 病期別理学療法モデル
 - 第 4 号 筋力増強—update
 - 第 5 号 新人教育
 - 第 6 号 呼吸機能障害とチーム医療
 - 第 7 号 在宅理学療法の実践
 - 第 8 号 徒手理学療法
 - 第 9 号 画像を活かした脳損傷のケーススタディ
 - 第10号 身体障害者スポーツと理学療法の関わり
 - 第11号 症例検討—脳血管障害患者を多側面から診る
 - 第12号 股関節疾患の理学療法—update
- [第 45 巻(2011 年)]
- 第 1 号 自立支援
 - 第 2 号 通所サービスにおける理学療法
 - 第 3 号 脳卒中片麻痺患者の装具と運動療法
 - 第 4 号 ロコモティブシンドローム